［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成 19年　9月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2073300226		
法人名	特定非営利活動法人ふきんと		
事業所名	グループホームふきんと		
所在地	長野県下高井郡木島平村穂高2895番地8 （電　話）　0269-82-3363		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月1日

【情報提供票より】（平成19年 9月 9日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤　3人，　非常勤　9人，　常勤換算　3.2人	

（2）建物概要

建物構造	木造一部ＲＣ 造り
	2 階建ての　～　1　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	0 円
敷　　金	有（　　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有)（100,000円） 無		有りの場合 償却の有無	(有) ／ 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

（4）利用者の概要（平成19年 9月 9日現在　）

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護１	2	要介護２	0		
要介護３	1	要介護４	2		
要介護５	1	要支援２	0		
年齢	平均　83 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	木島平クリニック、木島平診療所、芳川歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年12月に開設されたグループホームふきんとは木島平の自然豊かな中で営まれている。近くには保育園、高校、役場があり、その中に民家を改修したホーム“ふきんと”がある。6名の定員で、大きな和室を違和感なく改造・利用し、笑顔の多い職員が入居者に喜びと生きるはりあいを与えている。職員は認知症について十分理解しており、人生の先輩を尊重してのケアの質は高いと感じられた。ホームには失われつつある農村家族の懐かしい面影を感じる。地域との関わりも多く、開所当時は良く知らなかった地域の方も、今は新鮮な野菜や果物を持って立ち寄り交流するようになっている。民家の趣を残したこのホームであれば入居してもすぐ馴染め、安定した生活が継続できるであろうと思われる。笑顔の多い入居者の方達を見て、ホームの立地条件や地域特性を活かしつつ日々創意工夫していることが、安心して静かに生活できる場の提供に繋がっていることを強く感じた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価を良く理解し積極的に取組んでいる。玄関のフロアには外部評価の綴りが掲示されており、前回受審分の評価結果も分かるようになっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回自己評価を行って改めて自分達が見直せる機会が出来て良かったと伺った。職員インタビューでも「経験が浅いと利用者に対して恥ずかしく思う時がある。」と語られていた。職員が評価項目の意味を理解しており、改善にむけて前向きに取り組もうという姿勢を感じた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	開所時入居された家族のご好意により役場が仲立ちになり今の民家を借りた経緯があった。運営推進会議は役場の担当部署の係も入り、参加メンバーの協力も得られ密度が濃い会議になっている。運営推進委員、家を提供する方、管理者の意思が統一され、理想的に運営されている。引き続き定期的に運営推進会議を行うことが必要ではないかと思われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族はホームを信頼している。毎月金銭管理については報告し、家族の承認印もいただいている。健康状態など連絡は密である。家族が訪れた際には本人の様子を話したり不安や思いを聞く体制もある。入居者の高齢化に伴い、ターミナル期を迎えた際はホームで見てあげたいと思う気持ちはあるが、まだ具体的な話にはなっていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	家族会は月１回開催し、毎月27日に近所の方達とお茶飲み会を行っている。そんな実践を通して今はホームに対する理解が深まってきている。最後に県歌「信濃の国」を歌い、故郷の思いを新たにして散会する。保育園の園児もイベントの折に顔を出したり、地域のお祭りの際は神輿が来たり、近くの高校の福祉クラブがボランティアとして定期的に来訪し良い関係を築いている。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「身近な人や豊かな自然とふれあい①喜びとはりあいにあふれた毎日を過ごす②生きる力を頂いたり差し上げたり感謝しあって暮らす。」という、地域性のある具体的で分かり易い理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員全員で理念を共有している。玄関フロアーの壁には誰でも目に付くように理念が掲げてある。会議の際や折に触れ全員で確認している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月27日に家族会やご近所の方達でお茶飲み会を開き、交流し、ホームについて理解していただく機会を設けている。健康体操や歌等、楽しく過ごしながら意義ある会になるよう計画し実践している。地区のお祭の際には子ども御輿がホームに立ち寄ってくれたり、保育園児がイベントの折に顔を出してくれる。また、近くの高校の生徒が授業の一環のボランティア活動として訪ねてくれる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については全員で理解している。今回の評価の過程でも何らかの形で各職員が関わっている。結果についても真摯に受けとめ、具体的改善に向けて取組もうという姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表や地域代表、村担当部署の係等が出席し、三ヵ月に1回程度運営推進会議が開かれるよう計画が立てられている。現状ではまだ開催回数は少ないが、委員の方は協力してくれている。	○	ホームを支え盛り立ててくれる大事な会議として運営推進会議を位置づけ、委員の選出等も考慮し、意義ある会議を継続出来るよう取組んで頂きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の総会の折には保険者である近隣の市町村担当者に出席を呼びかけている。今回は飯山市で協力してくれそうである。法の改正で他市町村の方が入居する時の手続きが大変であると伺ったが、機会ある毎にホームから働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は月一度、月末の土・日曜に開催している。また毎月金銭報告と請求書を送っている。写真を中心とした「ふきんと便り」を発行し、きめ細かく報告している。一番遠方に住んでいる家族でも月一回はホームに顔を出すような仕組みづくりをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に参加した時やふだんの来訪時に遠慮なく言っていただくよう話されており、意見、不満、苦情に対する取り組みは出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は少なく、開所からの職員が多い。諸事情で転職した職員もいたがその後も訪れてくれており、入居者とのよい関係を保っている。入居者も長年の人生経験を通して「別れ」の意味を理解していると考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加出来る仕組みは出来ている。近隣で行われる単発の研修には数名で参加し、代表して行く時も会議で報告し内容を共有している。大勢の職員に研修に参加して欲しいが予算的に難しいという悩みも抱えている。		
11	」	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域行政地域内のグループホーム連絡協議会が立ち上がり交流会に参加している。内容はまだ交流の域であるが、中身は会を重ねるごとに深まってゆくものと思われる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前にホームに来てもらい、本人や家族の意向を聞くようにしている。開所以来、２名の入居者の方の入れ替えがあった。家族の困っていたこと、不安なこと、要望などを把握し馴染めるよう心掛けており、民家改修型の環境とも相まって新規入居の際もすぐに生活に溶け込むことができた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者に対し敬意を払い、人生の先輩として尊敬の気持ちで接していることが分かる。言葉がけをしながら行動しているので入居者に不安がない。職員の笑顔やさしさが和みとなり生きる張り合いになっている。それぞれが役割を持ち、職員、入居者が双方向から生きる力を貰っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にして希望に沿うよう普段から聞く姿勢を大切にしている。話の中に出た戦友が訪ねて来てくれたり、調子が良い時は歌ったりして家族的に接している。それがまた本人の生きる力へと良い連鎖へとなっている。		
２。本人がより良く暮らして続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の気持ちに沿ったケアが出来るよう日常の中で言葉を良く聞き、家族の要望も取り入れて個々の計画を立てている。職員会議の中で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月１０日にケアカンファレンス会議を行いプランの評価や見直しに対応している。急な場合は朝のミーテングで話し合い、本人、家族、関係者とも連絡・相談し、新たに現状に即したプランを作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援や個人的な買物等への同伴は行っている。「短期利用共同生活介護」等の事業も現状の中で考えているが、待機者もあり、空きベッドもないので将来的に柔軟な支援をしていきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関・医師に受診出来るよう支援している。入居した際、近くの医師に変わる時があるが、本人・家族も納得している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末直前までホームで支援したことはある。今はまだ終末期のあり方について具体的に話し合いはしていないが、以前家族が遠慮して病院に入院させた経緯がある。ターミナル指針、マニュアル等の作成への思いはあるが具体的な所まで達していない。	○	ターミナル期を迎えた指針などは、グループホーム協議会等で検討して行くのも一つの方法かと考える。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の言葉がけが誇りやプライバシーを損ねていないか、日々見直しをしている。事例等を話し合うことでふりかえり、介護のあり方を見直す機会としている。「ふきんと便り」の写真のレイアウト、配布先等にも配慮するなど、秘密保持については徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう常に心掛けている。希望に沿った支援を実践している。花見、ドライブ、畑仕事等、一人ひとりのペースに合わせ支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の経験や体験から今の状態で出来ることを協同してやっている(お茶いれ・食器拭き・芋の皮むき・餃子作り・おはぎ作り・キュウリ切り他)。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意思を尊重し、職員とのコミュニケーショをとりながら１日おきに週３回入浴している。職員２名で介助する場合もある。近くの旅館の理解・協力をいただき、温泉での入浴を貸切りですることもある。入居者の楽しみにもなっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の体験や経験に合わせ、魚の餌くれ、カレンダーの日めくり係、窓のカーテンあけ、野菜の収穫等、張り合いを持って活動していただけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買物外出等、体調や気候を見ながら希望に沿った外出をしている。今年は暑かったので涼しい時間帯で体調を見ながら外出した。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近所の方もお茶のみ会等を通じて入居者と顔馴染になっており、外出傾向のある入居者を見かけた時には声かけやホームへ連絡をしていただけるようになっている。鍵はかけない支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回消防署の協力を得て避難訓練をしている。地域の方にも参加していただいており、不測の状態に備えている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないが、学習された職員が献立を立て、一日1,400～1,500カロリーでバランスの良い食事を楽しんでいる。水分確保についても朝・昼・晩と１０時・３時のお茶で１日1000cc以上は摂取しており、生活習慣の中で自然に確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修のホームであるが、大きくしっかりとした建物でゆったりとした空間がある。夏花が飾られ、それぞれの椅子にはお手製のカバーが掛けられ、入居者は自分の好きな空間に身をおき庭を眺めたり歌を楽しんでいる。皆が集まる共有スペースにはグランドピアノがあり弾く入居者もいる。また大きく立派な仏壇があり、朝・晩合掌する信心深い入居者の姿も見られる。居心地の良い共用空間が見事に創り出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	北側の居室からは畑や黄金色の稲穂が見えて四季の様子が分かり、広い居室にはそれぞれ家族写真が置かれたり趣味のものが置かれている。南側の居室からは大きな池を配した庭園が見られ、花が咲誇っていて心が豊かになる。		

※ ▒ は、重点項目。